



KANAGAWA

子ども会

第52号

発行
企画・発行 2019年3月1日
神奈川県立青少年センター
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1
TEL 045-263-4466

編集
神奈川県子ども会連絡協議会
〒241-0815 横浜市旭区中尾2-1-14
TEL 045-365-4546

目次

	ページ
◆ジュニア・リーダー（以下J L）記者による地域の魅力的な活動事例①～③	2～4
◆神奈川県子ども会大会・県立青少年センター子どもフェスティバル	5
◆J L大会（神奈川県子ども会連絡協議会、指定都市子ども会連絡協議会）、J L紹介	6～7
◆2017年度表彰、2019年度事業計画	8

安全・安心な子ども会活動を推進するために

子ども会活動で、一番重要視することは、ケガや事故が無いことです。そのケガや事故を起こさないためには、事前の準備や会場の下見、更には安全教育（KYT研修 ※危険予知トレーニング等）の実施が重要です。

子ども会の目的は、事故を起こさない事ではありません。何もしなければ事故は起きませんが、活動しない子ども会からは何も生み出すことはできません。大切なのは子ども会活動を通して、安全意識や危険予知能力を養い成長していくことです。

神奈川県子ども会連合会推進 3分間KYT

子ども会活動前の3分間で、活動中に起こる可能性のある事故を、子ども達自身に気付かせ、その防止策を参加する子ども達や育成者等で考える事が「3分間KYT」です。

- ①潜んでいる危険を発見する事からスタート。
- ②危険な点を出し具体的・可能な対策を考える。
- ③安全のための行動目標を設定する。
- ④互いに確認し難しく考えないで全員で行う。



様々な人との体験や交流を通して、
安全で楽しい子ども会活動により、
子ども達が成長できる様にしましょう!!

小田原市子ども会連絡協議会会長
(一社)神奈川県子ども会連合会副会長 橋本 輝夫

安全を確保するための重要なポイント

- ①参加者の健康状態を考慮し、事前に連絡をして適切な服装を準備する（暑さ、寒さ、雨天等）。
- ②活動に使用する場所や会場について実地調査や下見を行い、安全であることを事前に確認する。
- ③実施にあたり、参加者と保護者に対して、安全に関する注意事項について、事前に周知徹底をする。
- ④参加者の人数を正確に把握し、集合時、実施中、解散時等必要な範囲で人員点呼を行う。
- ⑤使用する材料、用具等事前に点検し、安全性を確かめる。用具は十分な指導の上で使用する。
- ⑥事故発生時は、応急処置を行い、緊急時の対策を取つておく（育成者等の自家用車の準備、保護者の連絡先の事前確認、休日の医療機関の事前確認）。必要により救急車を要請する。
- ⑦活動中（宿泊含む）、育成者等はアルコールを飲用しないで参加者を見守り、緊急事態に備える。
- ⑧けがは行事の休憩中にも起きるので、育成者等は休憩中にも参加者に目を配る。
- ⑨注意・指導をするときは、具体的な理由を伝える。
- ⑩育成者等は予報に注意し、天候の変化を知り、状況により適格な判断で事前あるいは行事の途中で延期や中止、計画の変更を決断する。
- ⑪KYT研修の実施
 - ・日頃から研修会を実施する。
 - ・行事の当日、開催場所の状況を基に3分前後のKYT研修を実施する（どこが、何が、危険でどうしたら安全なのか等を話し合う）。

もっと、地域防災・安全を伝えるために

(一社) 神奈川県子ども会連合会

神奈川県子ども会連絡協議会ユース・リーダーズクラブ

渡邊 あゆみ 高橋 祐輝 中村 緋那子

毎年恒例の神奈川県子ども会連合会主催「ぼうさい探検隊指導者養成講習会」が、9月8日（土）座間市青少年センターで行われ、私たちはその中で「ぼうさいマップづくり」の体験をしました。

この研修会は、東日本大震災を機に、ジュニア・リーダー（以下JL）、ユース（シニア）・リーダー（以下YL）ができる事はないだろうかと考え、日本損保協会の研修を受講し、その年のJL大会の研修でYLが講師役となり、JLが町を散策しながらマップ作りを行ったことがはじまりでした。そして、その翌年から神奈川県子ども会連合会の「安全教育研修会」として開催するようになりました。現在は、県内各地で子ども会の役員が講師となり実施し、今年で8回目を迎えています。

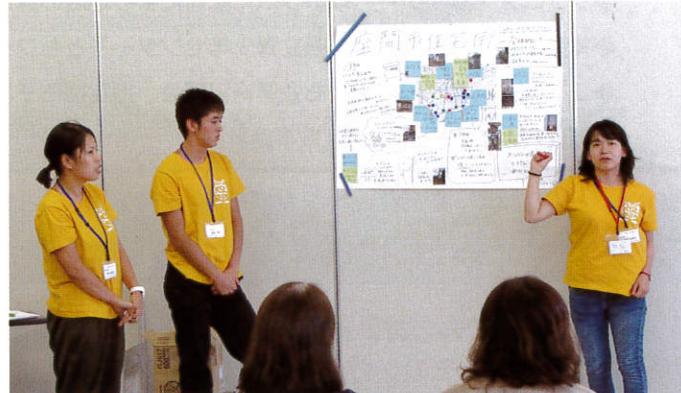
ぼうさいマップを作ることで、地域の防災は勿論ですが、参加者が互いに役割分担をし、地域を歩きながら、自然と知らない者同士が交流でき、地域の取り組みや子ども会と自治会との連携など様々な取り組みを知ることができます。

アイスブレイクとして地域防災を

私たちは、YLとして運営側で活動することが多いのですが、今回のぼうさいマップ作りでは、初心にかえって参加者として活動しました。知らない土地での発見ができ、実践を通して皆で作り上げることで、楽しくマップ作りができました。今までマップ作りを何回も行っていますが、「地域防災・安全」など堅苦しい言葉ではなく、まずはアイスブレイクとして活用もでき、仲間と交流しながら楽しく作り上げができる良いプログラムだと思っています。実際、他の班を見ていると、和気あいあいと盛り上がり、身を乗り出して作業したりと班の個性をだして楽しんでいる姿が多く見られました。

今後もこの活動を指導者養成だけでなくJLにも伝えていくことが、私たちYLの務めであると思っています。

（渡邊 あゆみ 中村 緋那子）



学んだことを伝える力も必要

私は、これまでぼうさいマップ作りを一度もやったことがなかったので、活動の手伝いをしながら、参加者視点で行事に参加しました。

ぼうさいマップを作るにあたっては、グループでリーダーを決めたり、地区を歩きながら危ないところを探したり、帰ってからそれをマップに書き起こすことなど、活動は盛りだくさんでした。

そして最後に、皆で作ったぼうさいマップを全員で共有しましたが、どこも要点が簡潔にまとめてあり、何を注意したらよいか、行ってほしい対応はなにか等明確な説明でした。人前に立つと口下手になってしまふ私には、とても参考になる話し方でした。

まとめの時に事前準備のことについて話があり、ぼうさいマップ作りを一つやるのにも、何日もの下準備が必要なのだと気が付きました。行事を単純に楽しんでいた昔と違い、企画もやるようになった今、本当に企画者には感謝でいっぱいです。

このぼうさいマップ作りを通して、他の人の意見や考えを知り、また一つ勉強になりました。

（高橋 祐輝）

大和市の子どもたちとマップ作り

日時：11月3日（土）

対象：大和市中央5丁目子ども会

小学3～6年生（8名）

内容：低学年班と高学年班の2班に

分かれてぼうさい探検隊を実施。

感想：○難しいと思っていたけど楽しかった（子ども）

○子どもたちの頑張っている姿や短い時間で作り上げることにびっくり（保護者）



人と人とをつなぎ安心できる地域に

横浜市泉区台村子ども会

横浜市ジュニア・リーダーズクラブ連絡協議会
下田 遥菜

平成31年1月14日（月・祝）、横浜市泉区上田西公園で、台村子ども会主催の「どんど焼き」が行われ、夕方の4時から公園の広場に、小学1年生から6年生の約20名が集まりました。その他にも子ども会の役員、自治会、消防団、地域の皆さんを合わせると総勢50名近くの方々が来られていきました。

伝統行事が世代を超えたふれあいに

「どんど焼き」とは、小正月（1月15日）に、正月飾りや書き初め等を家から持ち寄り、長い竹を柱に細い竹等で作ったやぐらに飾りつけ、それを燃やす火祭り行事です。そして、その残り火で木に刺した団子や餅を焼いて食べると1年間健康でいられると言い伝えられています。

この地域では、3方向に枝分かれした木に三色の餅を付けて残り火で焼き、その餅を食べたり、その木を玄関に飾ったりすることで、無病息災に繋がると言い伝えられているそうです。



参加した子どもたちからは、「大きなたき火をしているようで暖かく楽しかった」「竹が燃えてバーンと大きな音がして驚いた」「だんごが美味しかった」「子ども会の行事にいつも参加しているけど、今回も楽しかった」等の感想が聞かれ、普段なかなか接しない伝統行事を楽しんでいたことが伺えました。



この行事は、昔から続いている行事で、この他にも地域の運動会や夏祭りなど、四季を通じた行事を実施しているそうです。そして活動を通して、子どもからお年寄りまで、地域の中で世代を超えたふれあいができるそうです。

行事が地域を結びつける力に

昨今、伝統行事への対応も変化しており、「燃やす」ということ一つとっても、安全管理を徹底する必要があります。開催場所周辺の住民の方へ理解を求め、消防団に協力を依頼することで、現代の環境でもどんど焼きを行うことができるそうです。

一つの行事を行うことは、地域の多くの方々の協力、理解が必要なので、大変さはあると思いますが、その機会が人と人、地域を結びつけるものだと感じました。そして、顔と顔がわかる結びつきが、地域で安心して活動できることにつながっていくように思います。

私はジュニア・リーダーの活動を始めて7年になりますが、いろいろな地域の子ども会、自治会の活動に参加してきました。しかし、こんなにも歴史が長く続いている活動に参加したのは初めてで、とても感動しました。今後もこのような伝統行事を続けてほしいと思うと共に、私も改めて地域での活動に積極的に参加したいと思いました。

気づかなかった「入りやすく見えにくい場所」

川崎市高津区子ども会連合会

川崎市高津区ジュニア・リーダーズクラブ
森村 直生 蛭名 真由佳

平成30年9月1日(土)川崎市立中央支援学校で、高津中、東高津中学校地区地域教育会議による「地域安全マップ作製講座」が行われました。参加者は50名、小学2年生から大人の方まで幅広い年代の方が参加していました。

地域の人でないとわからないこと

地域安全マップ作りでは、「入りやすく見えにくい場所」「入りにくく見えやすい場所」をキーワードに、実際に街を歩いて、街の人々に聞いたり見たりして、どこが安全なのか、そしてどこが危険なのかを見て回りました。

街の人々に、どこが危険なのか聞いてみると「この道路は街灯も少ないし、夜は人通りが少なくて危ない」という話や、「こここの公園は、最近自治会の人々が来て貼り紙を貼っていたり、花を植えたり、花に水をあげているのを見た」と少し安心できる話もありました。人の手が届いている所がどういう所なのかは、その街に住んでいる人に聞いてみないとわからないと感じながら帰ってきました。その後はグループで、街を歩いて見て分かったことを模造紙にまとめて発表しました。

みんな自分の街の近くなのに、こんなにも危険な場所が多いとは知らなかつたと言っていたので、実際に歩いてみて、その地域の人でないとわからないこともあるということがわかりました。

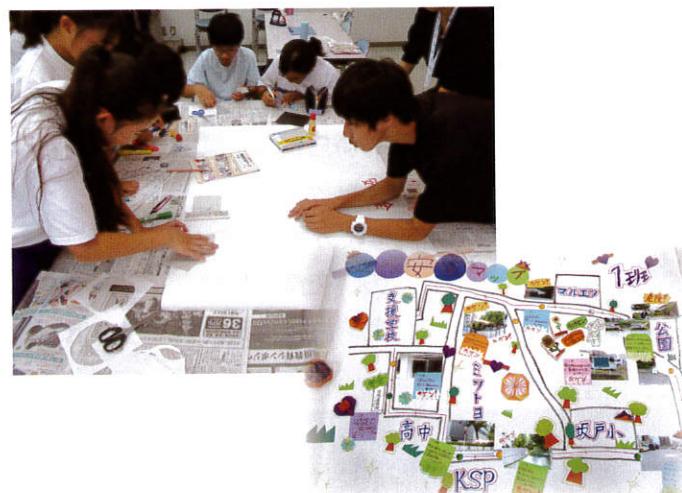
(森村 直生)



見えないことがたくさんある

この活動に参加して、普段自分達が生活していても見えていない事がたくさんあるということに気づきました。

自転車などで通る道でも見ているようで見えていないことがあるのがわかりました。また自分では安全だと思っていた所が、実は死角で危ないということもわかりました。この活動に参加しなければずっと気づかなかつたかも知れません。これからは日頃から危ない所を注意していくたいと思いました。



人のやさしさにふれ、地域のことを知る

また、地域の人との交流の大切さを感じました。地域の方々は、やはり私よりもたくさんのことを使っていて、活動している子どもたちが地域の方にインタビューしていた時に、私たちの知らない情報を教えてくれました。またインタビューにも一生懸命に答えてくれていて、本当に良い街だと思いました。

私も役員の方々にインタビューをしましたが、役員の方々も一生懸命に答えてくれました。おかげで、この活動を始めたきっかけや子ども会活動へのつながりがわかりました。皆心優しい人ばかりでとても感動しましたし、私もここで出会った人たちのようになりたいと思いました。今回参加してみて、人の優しさにふれることもでき、自分の街のことも知ることができ、良いことづくめの活動でした。

(蛭名 真由佳)

神奈川県子ども会大会・ 青少年センター子どもフェスティバル

平成31年
1月27日(日)

海老名市ジュニア・リーダーズクラブ

畠山 祐希

僕は、初めて子どもフェスティバルに参加し、司会に挑戦させていただきました。最初はどうしたら良いのかわからず、なかなか話が進みませんでしたが、何度も他市のJLCたちと話し合いを重ね、協力しあった結果、本番を楽しく迎えることができました。

発声しにくい言葉や、感情を込めた表現を繰り返し練習したので、本番では特に緊張することなく落ち着いて司会ができました。

「楽しいことに挑戦できて楽しめる」ことを、いろいろな人にも知ってもらえるように、今回の経験も活

かし、これからのジュニア・リーダー活動をもっと活発にしていけたらと思いました。来年も関わりたいと思える楽しいイベントでした。



三浦市ジュニア・リーダーズクラブ

町田 水夢

今回で子どもフェスティバルには、2回目の参加でした。前回は体験ブースを担当させていただいて凄く楽しい思い出があったので、今回も楽しみにしてきました。今回は活動発表を担当させていただいて直接演劇の専門家の方にご指導をいただき、今までにない経験の中で楽しみながら発表することが出来ました。

この体験は、ジュニア・リーダーズクラブ（以下JLC）をしていくうえで、学ぶことが多く、他市のJLCとの交流も出来ました。この経験をふまえて新しく活動をするきっかけになると思いました。

知名度が低く、あまり知られていないJLCですが、このようなイベントを通して、沢山の方々にJLCを知っていただけたらと思いました。



川崎市麻生区ジュニア・リーダーズクラブ

星野 萌香

今回初めて子どもフェスティバルに参加させていただきました。準備の段階では、より良いブースの案を出すために、ジャンルで分けて話し合い、ぶんぶんごま・ステンドグラス作り、ペタンクを応用したゲームを行うことにしました。その後、集まりを重ねながら仲を深め、活気ある明るい雰囲気で準備をすることができました。今まで他の地域のJLCと関わることが少なかったので、みんなで準備から始めたことはとても貴重で楽しい時間でした。

当日、私はフェスティバルに来場してくださった子どもたちに向けたゲームのブースを担当しました。多くの子どもたちが来場し、一生懸命作った後の子どもたちの笑顔やゲームを楽しんでいる姿を見てとても嬉

しかったです。また、保護者のみなさんに喜んでいただき、ブースを行った達成感を感じることができました。今回普段と異なる環境で活動して学んだことやアイデアを自分の地区の活動に活かし、地域の方々との交流の機会を増やしていきたいと思います。



ジュニア・リーダー大会

神奈川県子ども会連絡協議会

JL大会

神奈川県子ども会連絡協議会 ユース・リーダーズクラブ 山本 啓人

平成30年10月13日(土)～14日(日)に厚木市七沢自然ふれあいセンターにて、第14回神奈川県子ども会JL大会が開催されました。大会を行うにあたって、神奈川県子ども会連絡協議会ユース・リーダーズクラブ(以下県子レンジャー)が、企画内容の立案、運営を行いました。

大会には県内の5つの市から16名の参加者が集まって「憧れ」をテーマに1泊2日の大会を過ごしました。また「憧れ」を身近に感じてもらえるように、今大会では全体を通して「いいねカード」といった相手のいいところを見つけて、書いて渡すということをしました。参加者、県子レンジャー共にたくさんカードを書いて「いいね」を見つけることができました。みんなが憧れを持つことによって目指すところ、越える壁が見えたと思うので、これから活動での目標にしてもらえば良いなと思います。

県JL大会に参加してくれたJLのみんな、ご協力頂いた指導者の皆様、ありがとうございました。これからもJLのために県子レンジャーはがんばります。



指定都市子ども会連絡協議会

JL相模原大会

川崎市宮前区ジュニア・リーダーズクラブ 有吉 真

平成30年8月3日(金)～5日(日)に相模原市で行われた第49回指定都市JL大会で、特に印象に残ったグループワークについて紹介します。

このグループワークは、JLのPRチラシをつくるために班ごとで話し合い、一枚の紙にまとめるという活動です。まず各都市の活動を出し合ったところ、例えば定例会の仕組みや回数、研修内容などに色々な違いがあることがわかりました。また高校生が中学生に実際に教える活動など、川崎にはない活動もあって驚きました。お互いの良さを認め合いながら、自分の区に取り入れようという動きも生まれ、有意義でした。

私の班のチラシは小学生対象だったので、興味を引くように可愛い絵を入れたり、分かりやすくするために説明を箇条書きにするなどの工夫をしました。作りながら、改めてJLとは何かを考えることができて、本当に良かったです。他都市からは「川崎でまた会おう」とか、「来年の川崎に期待」などとコメントが寄せられ、うれしかったです。

来年は川崎大会です。第50回という節目の大会になりますので、たくさんのJLたちの期待と応援に答えられるよう、気を引き締めていかなければならぬと思いました。私は今年度でJLを卒業しますが、実行委員として大会に関わります。相模原大会のように楽しく充実した大会になるよう、全力を尽くします。



ジュニア・リーダーズクラブの紹介

座間市ジュニア・リーダーズクラブ

運営委員長 児玉 翔太

座間市ジュニア・リーダーズクラブは、中学1年生～高校3年生まで21名で活動しています。年間の活動としては、年度初めの開講式、リーダー野外研修会（キャンプ）とその事前研修会、ドッヂボール大会、ひまわりランドや紅葉祭のイベントのお手伝い、秋田県大仙市や福島県須賀川市との交流会、閉講式となっています。

その中でも特に力を入れているのが夏に行われるリーダー野外研修会です。このイベントは、小学4～6年生を対象とした2泊3日のキャンプです。そのイベントのために私たちは、3月から7月までの休日を使って企画

を決めるための会議をしています。

今年は、体育館を利用した運動会、野外炊事、キャンプファイヤーの司会進行、ミサンガのレクチャー等を行いました。大人の方々のサポートを受けながら参加者と楽しむことのできるプログラムを実行することができたので、とても達成感がありました。

これら貴重な体験を学校生活でも活かしたいと思います。



喜びは、とても大きくそれは私たちを強くし成長させてくれます。

活動は自分の区だけではなく、横浜市のJLの活動に参加する事で他の区との交流も深めています。この活動では自分たちの区では学べない他の区の知識や技術を知ることができ、それを使って自分たちの区の活性化やJLとしてのレベルアップにも繋がっています。わからないことは大人のYLや仲間と助け合いながらみんなで楽しく活動しています。JLならではの貴重な体験を私たちと一緒にやってみませんか？



区以外のJLと交流して、JLとしてのレベルアップを図っています。

普段何気ない生活では体験できないことを、私たちと一緒にやってみませんか？

私たち「すいせい」のメンバーは、学校の仲間や同年代のメンバーだけでなく中学1年から高校3年まで異地区異年齢の人たちが自分自身を成長させながら、子どもリーダーや地区の子ども達と一緒に楽しく活動しています。JLは、高校3年までですが、それ以後はYLを目指して頑張っていきたいと思っています。



横浜市磯子区ジュニアリーダースクラブ

会長 高杉 柚那

磯子区ジュニアリーダースクラブは、中学生以上の男女合わせて総勢約30名で、青少年の健全育成を目的に、子ども会のお手伝いや私たちが主催する宿泊研修を行なっています。

磯子区では春と夏の年二回、宿泊研修があります。参加者は小学4年生～6年生で、この研修会でしか出来ないような野外炊事や自然に触れ合えるなどの貴重な経験ができます。この研修会のために私たちは開催日の何ヶ月も前から会議や自主研修を通してたくさんの準備を重ねています。自主研修では、自分たちのJL力を高めたり本番に向けたリハーサルを行います。その過程で上手くいかずに悩んだことや辛いこともあります、その分成功した時の達成感や子どもたちの笑顔が見られた時の

川崎市高津区ジュニア・リーダーズクラブ 「すいせい」

会長 戸田 芙佳

高津区ジュニア・リーダーズクラブは「すいせい」と言い、男女合わせて20名で区のイベントや自主研修を行っています。

高津区は、市内でも珍しく、年に2回の宿泊研修があります。普段の活動とは違う研修で、わたしたちの主な仕事は、子どものサポートですが、自分たちが楽しむことも大切に活動しています。やることも多く大変なのですが、その時の失敗点や振り返りを次につなげることができ、次の活動をさらによいものにすることができます。

活動は自分の区だけではありません。川崎市のJLとして他県のJLとも交流します。市内のJLが集まる「シニアむげん」が主催するJL研修では、自分たちの

～2017年度表彰～ おめでとうございます

公益社団法人全国子ども会連合会表彰

育成者・指導者

(敬称略)

石川 サヨ子(川崎市宮前区)

渡邊 光子(川崎市多摩区)

山口 志ず子(清川村)

伊良子 あや恵(横須賀市)

神奈川県子ども会連絡協議会永年功労表彰

個人

横浜市

畠見 恒次(栄区)

(敬称略)

川崎市

福田 浩一(多摩区)

井田 雅春(多摩区)

武藤 光夫(多摩区)

川崎 園枝(多摩区)

中村 清(中原区)

永田 利則(中原区)

熊田 美津男(中原区)

根本 一雄(川崎区)

栗山 朱美(高津区)

道木 大介(幸区)

小田原市

佐藤 政則

大和市

野村 満寿美

綾瀬市

桃崎 和子 岡本 敦夫

厚木市

岡 千嘉子

団体

横浜市

鶴見一・二丁目子ども会(鶴見区) 羽沢南子ども会(神奈川区)

(敬称略)

川崎市

木月住吉町子ども会(中原区) 有馬子ども会(宮前区)

綾瀬市

綾瀬市子ども会育成連絡協議会

松田市

松田町子ども会連絡協議会

2019年度主な予定

事業計画			
2019	5月	12日	県子連YLC総会
		25日	県子連総会
		30日	全子連総会
	6月	23~24日	関ブロ総会(静岡県)
	8月	2~5日	指定都市子連JL大会(川崎市)
		16~18日	関ブロJL大会(山梨県)
	10月	4~6日	全国子ども会育成中央会議(岡山県倉敷市)
		20~21日	関ブロ育成研(静岡県)
	11月	2~3日	指定都市子連育成研(神戸市) 県子連JL大会(予定)
2020	1月	26日	子どもフェスティバル(県立青少年センター)

<連絡事項>

神奈川県子ども会大会、各地区研修会など日程や参加募集など詳しくは、神子連のHPアドレスでご確認ください。

神子連HPアドレス

<https://www.kodomo-kai.or.jp/kanagawa>

<用語説明>

- ※全子連…公益財団法人全国子ども会連合会
- ※関ブロ…関東甲信越静地区子ども会育成連絡協議会
- ※指定都市子連…指定都市子ども会連絡協議会
- ※県子連…神奈川県子ども会連絡協議会
- ※神子連…一般社団法人神奈川県子ども会連合会
- ※YLC…ユース・リーダーズクラブ(以前はシニア)
- ※JL…ジュニア・リーダー
- ※育成研…育成研究協議会

編 集 後 記

今年度は、「安全・安心な子ども会活動」をテーマに、県内の取組みを紹介させていただきました。イベントの前にKYTを実施したり、講習会に参加し自分たちの研修会に取り入れ発展させたりする等、子どもたちと楽しみながら事故の無いイベントになるよう取り組まれている様子はすばらしい事と思います。

近年、地域の防災訓練に子どもたちの参加が少ないといわれ課題になっています。今後、地域の皆さんと子どもたちが参加して楽しく学べ、防災意識を高められる防災訓練にしたいものです。

最後に広報誌の発刊に際しまして、原稿をお寄せいただきましたユース・リーダー、ジュニア・リーダー、また関係者の皆さん方、ご協力ありがとうございました。

広報誌担当委員長 片岡 喜久江